浪華見物游覽記

膝栗毛 八編 上

長町京二丁津谷町通
番頭文藏丁和西横堀
堂島孝宮津村市堂
稿所

へ13
3123
16

浮瀬貝杯銘

浮瀬七合生

君の為

鳴戸

膝栗毛八編

全三冊

波音

梅の枝

義瀬

吾妻月子

和菜

春風

道中膝栗毛八編序

元和、さての十年なる八月なるの比、九分なる云んるの首を結て永久の喜加猶しかのちぐさを極信ちさるまハ先大江都の八王所長ふして正ぐ神ゝ八笠葛木ゆく

福田綱雄蔵書

特
へ13
3123
16

跡を宗の八法華経の八部末世不伝へて
ひろく弘通ス八代集を家々に写ス
八卦十番盤ハ義合ともハ石乃
さうを
あれ物あれど貴しハケ月を限り所ろ
ひさ　ろうげ　ひろ　ある　ところ
拾ふ事も世ハ編まて玉てをきをしハ川也
思案の条ちかく元のまに酒の徴醉

よ紙ふぐ実の示ハ迎ロ上知恵代中揚
ぐそこ　ぎ　じ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ
庶なれど大ち紀仏雑栗毛の浜白撞
ぞ　ち　き　ぶ　ま　ま　ま　ま　ま　ま
事ア出たりの大坂著長所法のう
おみさうづきまちごまり
胃稽者は

文化
己丑春

十返舎一九誌

美九画

竹田近江唐操の之図

阿蘇陀が
ぐまね目で
矢先も
牛角
のくさを

竹田

式磨画

附言

猶栗毛初編を上梓して行まて今年八編まで
いつも上梓く滞尾しし年ぬ近ち後半年まで遅せし
版木は彼くに出て和泉の流れの景をもつさたむる
年出初篇再版のもらほしあれとそれふ殺増一
冊をもして二冊こしたの書ハ後の流行の
祝りとそもまてもも作出国雅しこの肯ハぞこい
祝のかくを弦月のの僧侶をもちてかめせんとの年
ちかをを移遠て法拔番まおくぶりのちらしし

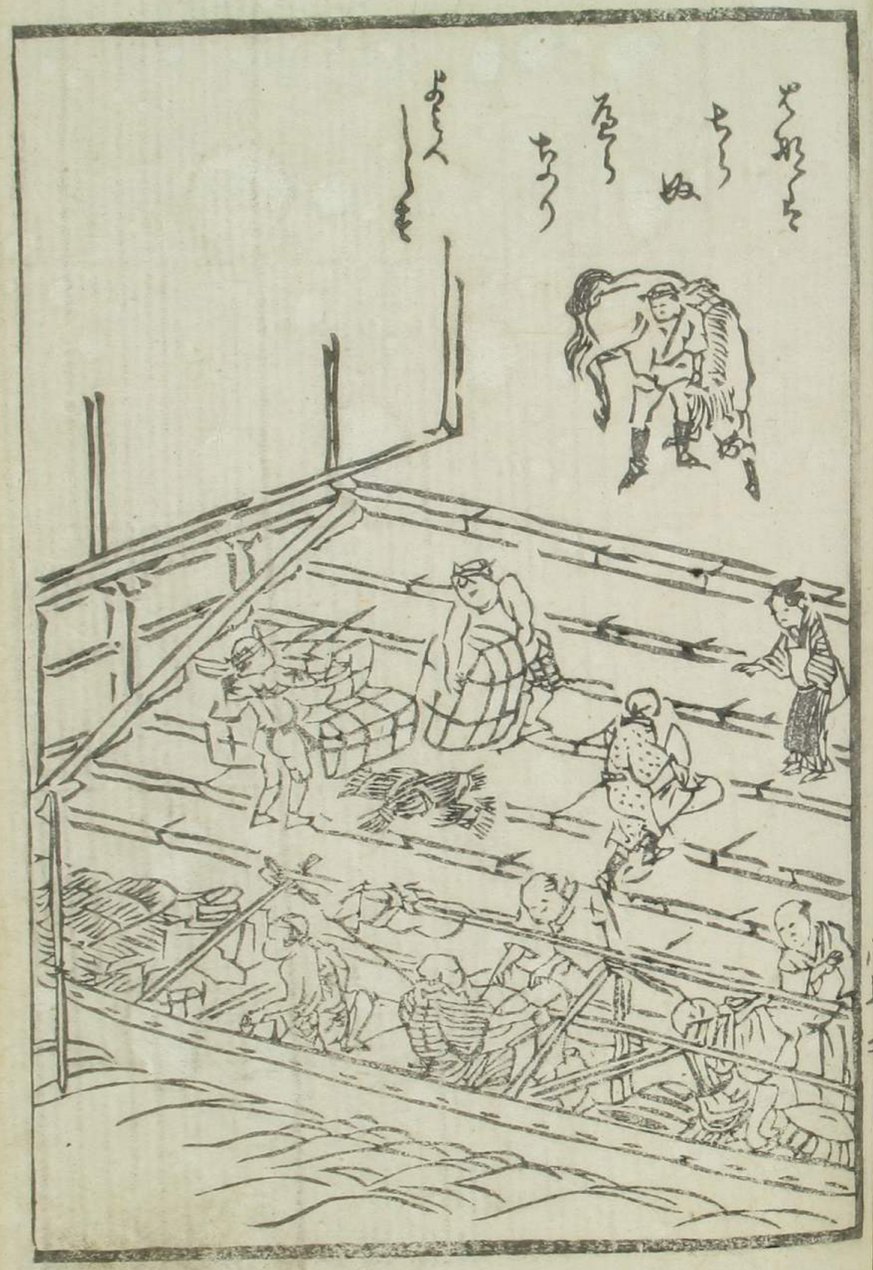
書肆　紫邑堂志

道中膝栗毛八編　上巻

東都　十返舎一九著

摂州難波の津ハ海内秀異の大坂舎ゆゑ諸
国の雲水市井安治の両川ふみよりをもつべ殆を
ちゝ繁て。さふもろ〳〵の荷物を鬻ぎ。商賈の船り
ぞろ〳〵。弼文院の法を淀川ハ掬さて。さ乃
ふ拔び。細者の翁卯ふ辞をもよれ。箕ハ難波
秋花の納涼を暮をとる上を暮やふ拔をとる。秋ハ

大阪八軒家



うら屋敷の月。月々ハ解船町の雪げしき。ほ雪おろ
の孫おろる中ふ同結ぬ花の世界ハいつもさうり乃
土蔵のざく〳〵解ひ乃ゝ町堀の芝居も新こせの
ちつもして群集ぞ。かゝる名所の花を。月のこゝも
おこと。ゝ。うの浜ぐうこ戯土蔵ハ名ハ。ふ
兄の屋敷ハ金市ぐうこ。きやくも大坂の
ハ鉄船ふいうこ。ゝ乃ゝ船をあぐうこいこれまゝて
ぐゝ時ふゝて。出面をぐうぐ。南北をとふまゝ〳〵ぐ。

人中繁盛ゝ。出町をさゝゝゆくあぐふ博奇通を
南ふ。日ぐ出ぐゝ出ぐうれ。ぐ。宿ぐ。ぐふ花合せ。
あゝとうけて宿のお使を出ぐる。西迷ハ。
出ぐゝ。出町の十二月ちふ。分洞河内屋ゝふ
ゆぐ。ぐ。ゆきぐる。ぐ川ぐふ。ゝ。ぐ。ぐ。ぐ

ぶねのてあげさんせ。よこきまいは掃ごーごあいら
のコレ久三おあ〜お供ひちきるお湯へぞ〜ぎあいわるても
ぐんちゃん。ゑ子くらうめてあげませんさらく。時ゆり
その四十七人さまへいこかあるらかイヤ先へ。先きなそ
後先人餐宮。見れ〜安人へ。ようこ泉別堂の天川
亀へ〜ぐんちゃんのさろちゃいな。ゆうぞう おやうらるこく
おはんや。おふうぞうらるこ。さろちゃのおひろ居〜や
きゆる。せ多んさふさんせ〜イ〜出安書〜ま きよ

ちゃ。ト皆あへ前ぞ第ひあるよ。ぶ家の間あぶの一の太鼓はて。
おやぞ。見るぞ七八千もあり〜ろ。ぞ安まつれられそゆくよ。
れくのちゃりる。おだうだうるゆぶ〜きへろ。
多四人との見ふ多ゆ金をかるるるれぶだんぞう。出ゆ。しみされ中せ
ぞふぞの。出寛石ぞまぶぞうま きよぶ。出一ぶよみされ
てるぞうゆ中せ。丹波のくへ〜ぐんちゃいてや。サア〜きつちゃへ見せ
さろ高へ〜ぞれへ出ちゃんちゃ安へ〜モシ見ろちゃ。ア二百も
遅前〜て。ア〜ゆ多ぐきふ〜ぞのこゃやまと〜ハイ
かゝとまりまゝ。先出ゆるゝ。ト見まゝ。ろてゆ〜コレヤ見ぐろる
ゝちゃぞ。ぞふゝぞ。ゝろちゃア見ぐぞぐぞ

ゆきとうまきこりや あざらし綿で。あんぺきまとうま
きとらいき〳〵そく 紙へろ ばき。おんなぎよりまざぐう
やきとトゞ肴 の女〳〵まく あげきまちいき トうぞんかちまつうきとる
あれぐもつまくきやぐてやもきまつて。きよりにのうちべろく
大あざらこの女あんまいやしきやうざぐうくきうて〳〵おまうじの
よごぞうまきとらいき。ぞふでもまつておこめんらき 紙へ
あんまきんぐ。おめ〳〵女ごの。きも生そうア。小八ぞふぐ。
もま紙へ〳〵ろちうこもんでやりてへ〳〵ゆまおう。ゆらい

ぞやぐ。おまいさんぐろへおるぐ。おやぐ。ヨーやアノおるぐ
のおろぐきときでやヨいきこのこちへ男らきうて。あの
いひぞやきまいぐ。ろくいきろぞうとしてあいヨらきおめく
きろぞう同ぐまんへやせんらろへるくはうちふきんぐいく
おてこぐみるぞ。ろきやてへ〳〵ア〳〵ぞやあろぞいきア〳〵ナシト
あんまきんぐ。男よりヨろちがいく男ろて。ろて年ぐ
ちぐヨろい。おてくろうきせへおろうきうふうちながう。
かんでかうひやせう〳〵ソリヤいうまふあそうヨらきコリヤ

おりろへ。サアおらろへいろぐぐぐぐぐ。まちあされ。おまへ
さんへ。ヤこりゃ。コリヤきろいい。男いい男ぐろう。孫。さよ
ぎや。お。ぐ。ぐぐぐぐぐ

尾陽
本芽田乐
遠州
浜松
の
河内屋
藤の
日あ
の
長町の
右

[illegible]
[illegible]
のせがちきらて〜サア[illegible]のをあぐ〜ちきれ〜せろく[illegible]
さかのを。まんざ〜さげまもきろ[illegible]ト[illegible]
いろ〜ざ〜ハイ〜ロせんづ〜ぎやろかゆりやもむちゃん。ろちや
あぐろて[illegible]れドろべ[illegible]
[illegible]
[illegible]
ちゃ〜あぐちきれ。ちちやろ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

いくでもあるる。ヱンゼ
そんちゃうあしらふうで出さまのうだりしん菓子ようう
ちゃごのわうがやまい。そんじゃて。あがうちゃきれてものを
ちゃとがちゃんがやちゃんがるる。まあ〳〵イヤヨちゃ。ふぶやア
孫へ。ヱんごあるあれせるトこぶらひるがうせんくるくせをちゃうひ
あんまさんいいてうご。ハイちゃうで。おあ〳〵一ちゃどおく
ちゃいる。十三ちゃでうろ。コリヤうらいくトこれもあとでせひるくちゃ
上げるこの女ちゃゆんがるる孫へ。ちゃしくるうめぶおいうを

いくうふさ。おちうてけうくるであろふぶ。そふ虎の皮ころ
ちゃふも名称さるがあうア。る麻るつる。ろくふ上菓
子をこふ大人はけておいるを。ちゃるぬちゃトうしろとさがさる
見えぶ。ハハもおるぶ。くふふおいるちゃぶ。うぶるる
いううるるぶ。ろてよう女ちゃるん〳〵やうんをちゃうそ。ちゃ近所さるで
どぶうちゃちゃよ。おふぶるがでけまゝトおうて。今のぶ
あっくてうぐいのふぶせさちゃん。ヱンゼリヤいんまのあんま
ろうめぶるそいんごかんぶちゃあろ。〳〵イヤうふ。ろいりのぶ
あうよるトしろのやるぶごうをあけて。サア〳〵コリヤ。ごちゃまち。ちゃさるまげりめとう出。長屋町の

こゝで世ちゃうてきようこ。さそうづけ漬ぎや。菓の子ひとう
中ちゅうの者れ。こりゃ。あうげて。浦ぢさんぎゃぐ。えんとゆうじ
孫へ。イヤそるんふくてゆらふてちゃんとうとちゃうれ
トこりゃこそうくはあまふて。はいけ女ちゃんとうぎう来り。かりのおこと。のべまきようかト
そそうれうぐけうちゃうてうう今ひとうの女まうゃんとち来ぐうう
えんぢゆくとそれをあのぢう今のあんまうゃうこうくきもとうぶし
浦モシ女中。今そこへ来さ女ぢ。うきのあんまぎゃア孫へうの
女さよぐやうちゃ。ぢせて同ぐえるアリアおあさんぐうへ
出るよ。同あきぐえおんおきぐあつて。うるいさうい。ぎぢきき

へ。あるいよ同のえんふして。出そぐやうちゃ。後の内うで
ときうまこまききうい。いふあうあ。いつもあるいふ猪を
浦つぐふていんぐやうちゃ。浦ヤアさそへ。おいうぐこそを
よくあてさぢぐ。同ぐえるかのを。そんあうおいうぐ
かのこりのもかのあやアぐうさちぐへ孫へ。女おうし。
おまいさんぐこの。浦ぢじてぢやくそまんぎそて。ちこしも
出ちゃんよ世ちゃてこうちゃト。うりうりうりう

ゆくゝゝゆ 按ケバそうざで えへ〜 まだ
まつちゆ 目の ちゐゆへて そう さて
ゑ歩 與ひて。それそうこ三人とも。蒲鉾こりがう。うち
ゆうるま。丹波の人ハまやさるよ。る 新うき出せど。やう
いいまぐ 振入もやうぐ。彼ゝゝゝ。ゆうち 裏通の
きうけゆ。大の 洋きこ人。剃竹のまる。時のこんとも。ちや
九つのうぐ 歩るる洗。まうこハあるをあげて コレ洗うさん
おめんどそゝゝゆ。まるる コレ るせう。あんまう 洗ゆへう。

ふゝゝおりひ出て。コレ九や。ハ。ハ。ハ

[illegible]おき[illegible]ヤア〳〵。ヨウさま〳〵ちっプリヤ
[illegible]ちゃ[illegible]。[illegible]ぜんぜんひろ[illegible]十二おめのうち
[illegible]。ヨーしぶ女房とちゃん。
さまゝヤちゃんのとろ〳〵ちゃんのとうちゃん情ないこの。
りヤヨーしぶ細ちゃ女房じゃこうる。そのうれあ〳〵ちゃと。
アヤ寄れトいそれて話ろ〳〵ちゃんでおきあんぞうの八ア秋月妙
[illegible]ちゃ[illegible]。そんちゃ〳〵は曲地ハおめのうちさまの
光信女ヤ〳〵。
背ぶる八十二背しこ。コリヤ大変〳〵。ちゃで絵ぶむう
ぶく。そぞうさまの十二ヨウさまのうちのむのうるうと

ようヨーのむのかはつおろこうこの。プリヤヨーぶもの村の
西法刹で。その背をとるぜ人おさめよ。ちゃちゃきよる
のそぞろこいのあまあ。大切るれ佛を。ちんぜんぜ
ようこ。ヨウさまちゃ。まあ人宮おやあるや寄まい。
寇ちゃ。ちく寄ちゃ。そこのぶやゆい〳〵。トさかをちゃ
くるく[illegible]ちゃおひき八ヨむこちゃ八ア。おめ人がさろき。
柳ぶをあけと附。ころげ出ちを寄ちぶる居さのこ。
そろちの云鋼法。それをさろ清ぶ〳〵おりて。ろと

のぶろちの蒸氣ソリヤ出ざるゝ。ゆもいきくさい極人
ヨるゝ〳〵イヤ〳〵きたゝ。たゝのことゝる。まぢてくさやく
トいきせいそろ。るゝぶきまぢるゝあきちゝせびきこハいろくとこて
ろういひざるぐるどめきに。ぢやゝくゝきろゝゝきせ。きづまりれ
ぢ。汚ゝくゝもちろのゝちよ〳〵イヤかんぢく。きぢゝ極人のさ
あらしさまぎゝゝゝし　若れ〳〵き

人の背くゝもこゝろ　若れ〳〵き
秋の　稀　ともうぢゝる　秋い

ぢ。汚ゝくゝぶくちぢきゝゝ。丹波の人もふけて笑ひを
傳〳〵。悩〳〵きげんをとりて。手紙ゝゝぶ。稀ゝく一瞥

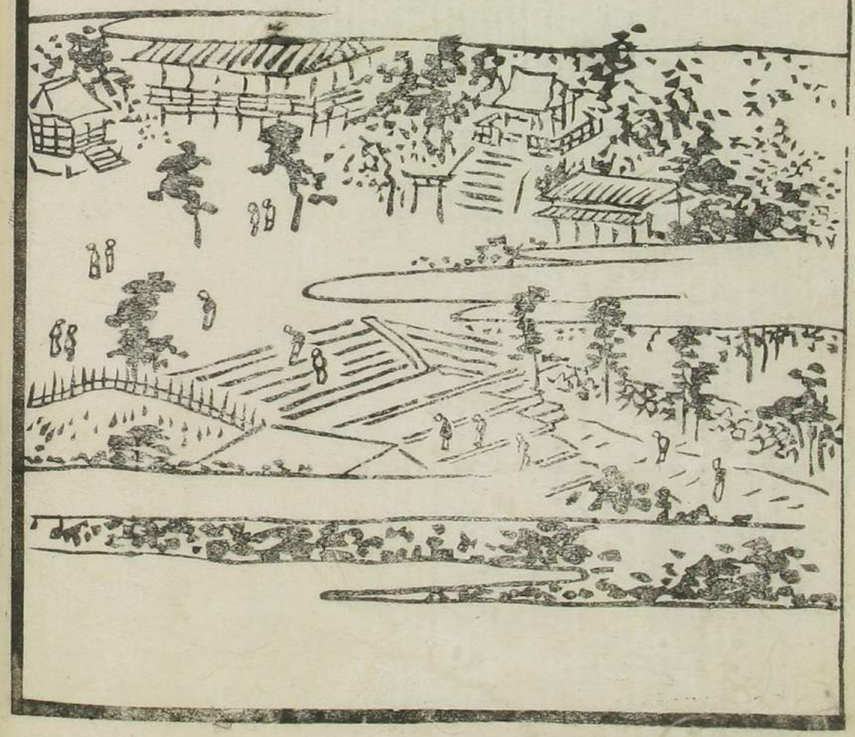
の蒸さめて。ぢ。ぢ。ぢ

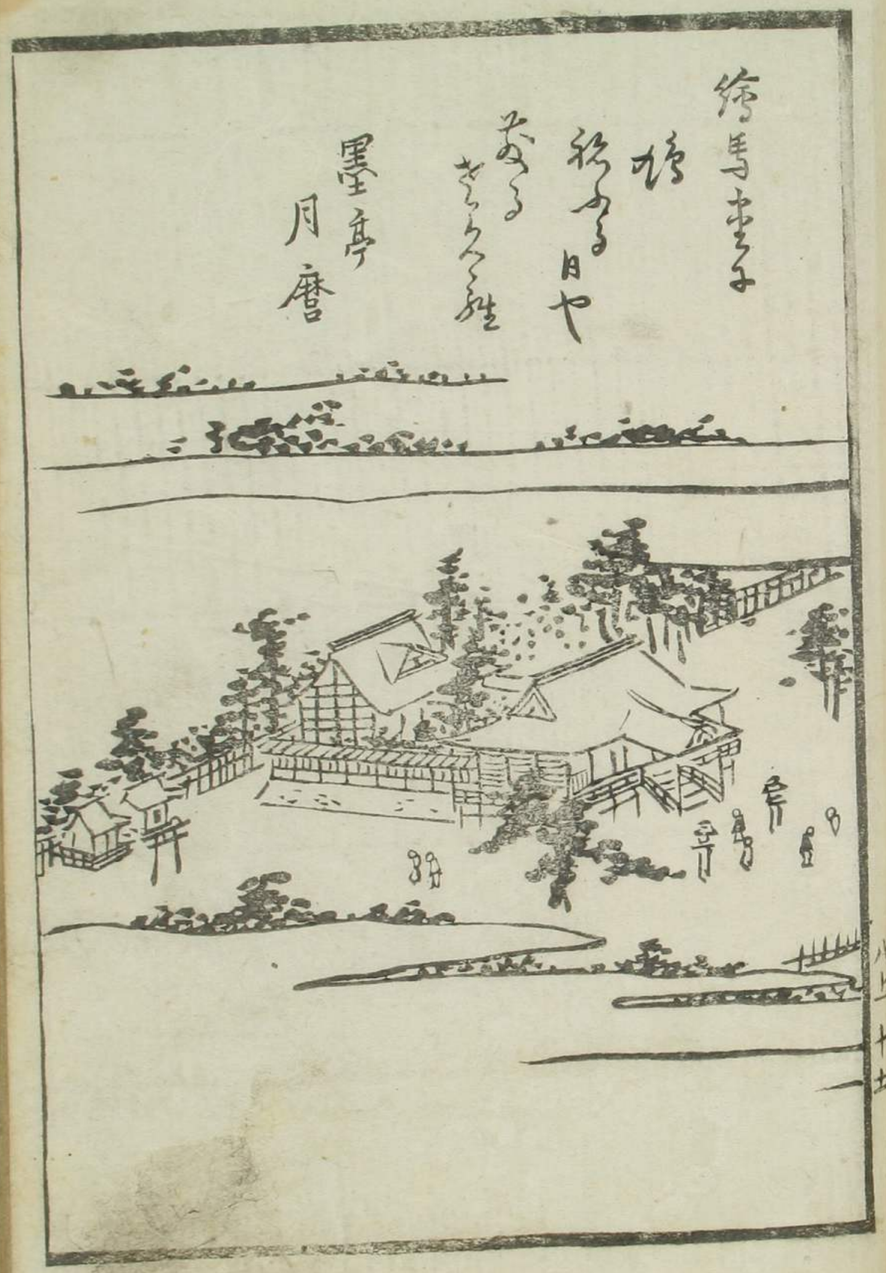
裏のまへ。コレ〳〵佐平次どの。ちよつとごんせト引て
あんまいの男とよび　あるとぐるぐる。あんまいなのむくあつまつて
おやゆ　モシ旦那ざう里。二てそく買てやらうぢやの。
ハイヤ一てそくでつ。おいらがうちへ来ても買てきさぶも
旦那ざうアそれ。こまと〳〵田舎もの。上方ぶんあく
ハイ　ヤ　ヤ　ヤ

高津社

長谷寺の
子答し
あらしの
ふを
見つの秋

感和亭
鬼武





絵馬寺の
秋
秋の日や
ふる
さらさら雨
墨亭
月麿

塚のもとまでまゐる。道くさはぞうんがりのくらんぎ。
あのゆき場さまが給人ある。おまへあのおまへ。おまへ新
のうちやが仏がある。女中がこの公家屋ふきの家。
そう黄つて嗜ておざるも。清例でもちまさるも。指詰の
姫人どもが給使の風をんがそうこうまでをまゐる
やうまゐるが奇妙。まこと風雅をたらんちう。住吉
神社清水寺の山門法華堂。仏殿ぶ。仏ぶ。仏ぶ。南ぶ。いつきふるまぶ。

上八十六

ぎへは見ぶ稲をお耳ふあてるく。芝居役者の彩色
はけひまこ本のうつ筆く。狂ぶぎきうてたもぶ。
お器とよまれぶ。ちこのうちぶぎのみるひ。みんくとあ
ぶうも同お。でのぼへまへるぶおこくぶや。千至ひく
外の寺周清ぶれぶやく。一仏ぶ稲やさん。おとふきいて彩
町ぶうもちくまへるう稲同さまぶやこのお山のツイ書き
ゆへるまつ同それぶやアちくまへるのぶ稲へをを
くまへるのぶ一なぶり。一ハテ仕る深く。彩町の間へ

ゝろゝ。きす或ハ下ゐる稲へるせぬ力のと川ハ
おさの弦巻で居そうの子川さそうゝ。ゝゝ先ゝお宮へ
まいろう。ゝゝいきなゝ。おゝろぐゝトゝそゝゝ稲おるやぐき
そゝまつりて
そゝゝ。ゝの稲よ脊ゝゝ巻きまわ
さゝ桂ゝさゝ津の文のゝゝゝさ
ゝゝゝ上流内の石垣を西まおゝゝち谷町でゝゝま
出ゝるゝ。ゝゝゝゝ獲林ゝゝくゝゝゝゝふぞ。ゝんゝゝゝ
居宿屋ゐゝゝる。ゝゝせゝゝゝゝつけてゝゝ茶 モシちんぞ

あゝやゝゝゝ孫ゝゝゝの川ハイ巻ゝ巻ゝ多貝。離の巻巾ま
きぞゝゝゝゝ川ゝゝゝ。ゝゝ稲ゝ。ゝのゝちゝ。ゝゝゝのゝゝ
ちんでもゝて出ゝてゝんゝ川ゝりゝゝゝゝふあぎゝゝゝる
陽 一 ゝゝゝゝ

ゆんきよ

「その戸をあけていんせ」ゆハ「又りの せちんへちう
ゆやいうれ 和へ ト せちんの戸をあけ
けんとまれだうちま 「エヘン」ゆハ「ゐむこだう
ちんのちう」ちう「きこ八。おいるゐうく出て
ゐるの「ゆハ」イヤ 法 さんざる。おいうア戸まどひをして。ぞんざ
ゆふあうこ。ゐゆくことこと。をしてうん和へト戸をあけゆる
ゐうう
ぶとうけて「イヤもちうとまうて。を。そ〜ていけむこア。大
ぶ
毒ざうふとうこう。ひ〜をでよ。出てゐる附それとゐて
ゐるのざよう。ア。ことを。ひ母ざいる。ア。退屈ざへう和ま

ゆんきよ

ト せちうよもうれ。きこ八せちんの「ゆハ」ぐうん 合点こ。今出るぞ
うちゆて。のこうこうてとさられざ〜「ゆハ」ぐうこん
トうこうこうて戸をあけ。ぎろ〜ゆ。ぎろ〜ゆ。ぎ。ぎろ。ぎゆ。ぎゆ。ぎ。ぎ。ぎ

うつみてもうとろうろ。ゆハをとぞくちう三味線をのむ
ぞ〆ゆハ〆きんごうとろうろ。ぞ〆ゆハ〆ぞくく出ちゆせくく。トうとろうろ
ぞ〆ゆハ〆ぞくくぞく〆ゆハ〆ぞくくぞ〆ゆハ〆ぞくくぞ〆ゆハ〆ぞくくぞ

ふるさとは見まほしけれど。せろぬんへゆくとらんとぐ。あるりん
らいるあわしい。ぱてらんちなせんぷろちゃぐがるるる
トひざぐらとさまるく。ちなん。ちなれどぞいるうちゅ
ちゃんぷ。ちゃく一ッぷんのまーてんる
ぱ。ぱがいくいくとぶ

そをとよう谷町ごそうで安堂寺町を玉造筋の
東西を通てこだうゆくあだふ桁て天満迄
ふでいうけ。まこそや淀川の流をひろく。わうよ
新ぶ。漕ちぶい捧さ。あひてうひ。ゆへれるふ丹よ
三みせんふこと。ち手ゆくで。捧の上とう。淀茶の
人三百生て。ヤアイ〳〵。おごれ〳〵そちなはよそてくさろ
ても。うちくんぐう。借淀をゆせぐまをて。弟おろ
ぐ。ろ〳〵いあわうぎや。あわよく〳〵。岐の中ろう仏ぎい。

そちぐあわうぎやるいきえの仏也とさる。ふごれう ぐ
あわうぎや。岐の中の〳〵ヨいい〳〵こうやのあわうてうだせうろいこち
あいうようるやきよまいぐみ。きえの仏ちんのおごれうふ。ま
けてろふりのいい。さちやあわうのろうんのぐやトいきうまき
ろうるいおとこの仏ハテろいるいのいの。ちるそんぐろうん あわうん
ろる きいて。あるこちや。わうておうんせトひうそうてはれ
ろろうらいのくヨウ〳〵あわうのろうんのく ハ〳〵ト仏内淀〳〵
そぐくヨ きくハる。
えんぐるさおされぐ〳〵。この を〳〵ふきわう。捧のてぐよまけんを。
いぐ〳〵でもうくあるろ〳〵。ちうあうく〳〵ちもぐるいて

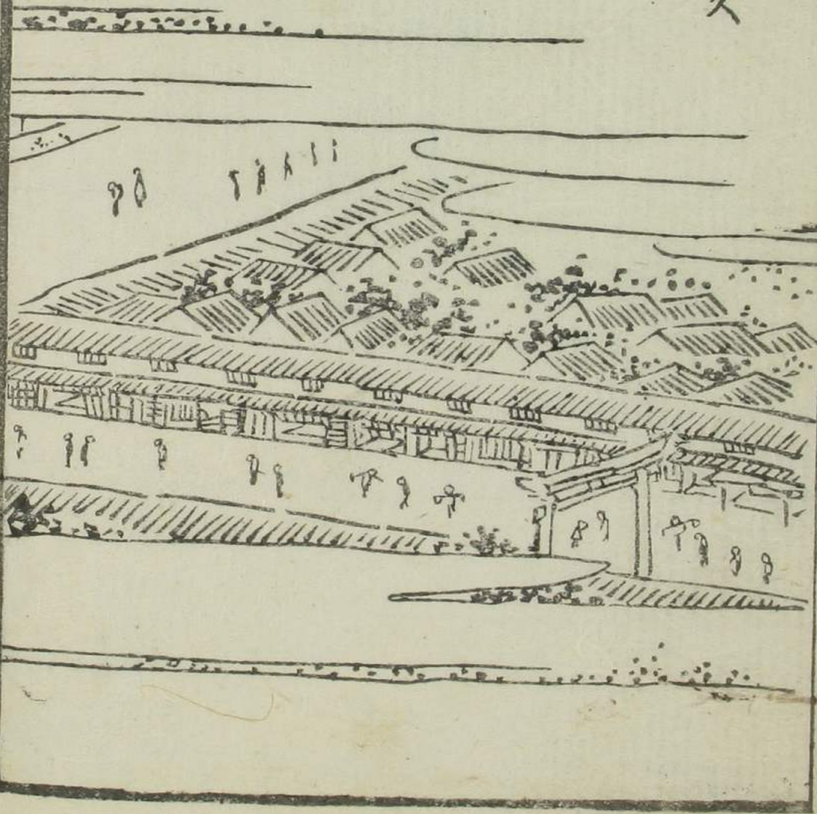
まろくろ
ちろまるよたちてちろちろけんてて
おほよ〳〵と　雁　絶ちまる
てをめちろ此搗を必ちり。市の御ごちをゆふ爲へ
あとの
青物の市ちろ西あて球よあふ品の地ちりる
書　かの〳〵　賣　買ちふちろ　商人平
と
尾　ひれの　ちゆる　市のちへ　まち
わどちろく　天蔭　天の中狂ちりるよ。まてや　弟侍の
ちろ〳〵
吉〳〵ちるいちろの人ごちろみよあちりを　神宝茶

屋の赤布　蛮かごふちまめき。あちや屋　楊弓場の
かんだり多。陸奥の仏をうどを。あるい仙助が能　狂
云　岩もがちまち世ちの中絵。天下山海の物　見
せちの。芝居。狂　曲馬　奈良焼内ち奈良ちろ
何彩ちろ　ちふ　ちちろ　ちのまち　舞ふ品
まちてる　八月　空　何生　天　神
ちて　社内　多く　水作し。霊　尊の女の。ま　ちろきちり
も。撰　同ち名　。小山屋のかごちも。むを　しく　ちる。

自在菴　天久

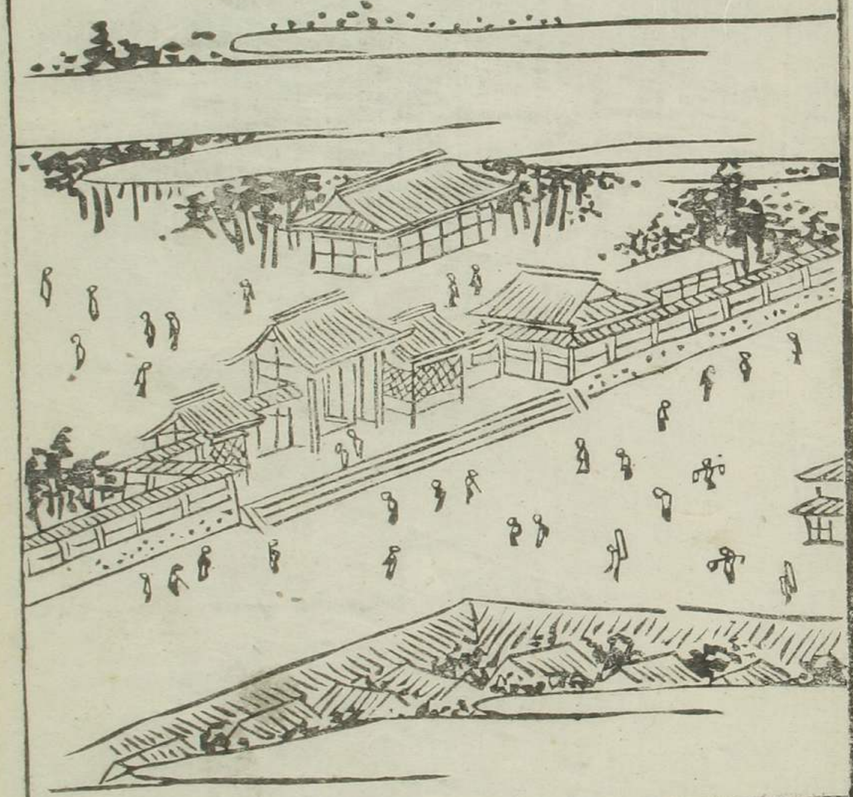
むこのれうる
邪婦の
外も
ゆくよ
夢見
舞を
こそとる
外の
むかつ

ひきうるの
天こう
外の



ひろまへる
秋の
よきとる
秋の
夕
ちる秋

春秋亭
仲住



天神地ごくらく出さうふ。浄瑠璃の太夫語る雪ちゃ
いらじてや。揺ちゃるとぬけうられぬ。書きまつる。糸のうの
いゆぐんがちゃう稲へどうせくまあ清合てうまやァぐていま
しんトつぶ〜ゆふよう〜デイ〜〜デイ〜〜デイ〜〜山せうと。彩みまを〜〜〜〜
あるくを。ぶぶ〜〜〜〜

のぐ〳〵ハテ　ぎやうさの　ぎやうこらの　ぎやうんぐ　こと
こと。　ちなを　〳〵　ほと　〳〵　ぐ　ほと　〳〵　ぐ　ぐ　ぐ

人はおされて、しのけんにくらるがゆゑ紙はつくるものゝ
かゝふおちてあるゆゑ、ぢぢらゆゑ、ひろひろ、ひろきえれを
かくのごとくなる札なり、今ふうてのとき、しらべも、ぢ甲ゑれざるのこゝや
ゆ、家のあしし、時をあて、ひろうらのくとのえ者をおかされてこゝろおしとるく

第八番

ゆきをとぎて、おそれ、モシ今あるとのおひゝひきされとのハ
家の札ぎやちんれうをゆ、そあざろ、コレハ十八ぜんなり
やをとゝ、コリヤ、座敷ざまの家のれぎや、きもりみはく日者
ひろう。大ゝ今はのみはて、ちゝあとぎろそうゆ
ゝそあを。ぞみせおとゝとくのかんざものをかゝつかのれ
であろう。ゑちまゆもちゆゝ極人トそのまゝひ極てうちを
てるをきゝ八あとゝあり

ちゆうこひろひてそらのちに　ゆくすゑのそらのぞるのやうにくるが
ちかのかたへけぶの岡日でふをうつきまゐ　ぞんぢ下向おび
ぞんぢ　ぞんぢ　ぞんぢ　ぞんぢ　ぞんぢ　ぞんぢ　ぞんぢ　ぞんぢ
人のそば　ちかづいゆくをきけば　アイ　弥介　会ると　とは　さは　いか　あの

八拾八ぜん　まで　ふ　ふ　が　ぶ　ぶ　ふ　ふ　の　あ　と

買ぜこちよ　ち　ち　ち　の　ん　の　ぶ　ぶ　ん　ち　ち　ち　ち　ち

一だんで　金二百五十　ちかつ　ちかつ　ちかつ

イヤ〳〵ひつきやう。ものをだきしめてぴろめるとやう
とて。又ものめの子へも入てらふものごろ。かたへおいらぶ
ものごろそれでも。おめいろんまとぎやあ出合ハテ
そふいそぎとく。ニアよこセトもうひろこときろきさハいろ
ものまいとせりものを左手にぎめ
こと〳〵ものごろふちきれそを笑いふろ。ひよろ〳〵きとこと
ゆ〳〵きろつけて。出まいものでもなんきろいゆぎやものろ
と。旦が按摩ぎや。半分づつ日けなさま。そして日
ゆも。ちろへおれぎやゆろまつりやあいろぶ巻うち
の所ぐゆゆ出ろ名前いそぎぶ金入ごとぶ入のご
ろう〳〵りやあものの世話人のあることで日旦ありまを
ものろ〳〵そんゆ〳〵そけいろてんやうトゆつれてそのもとろ
へゆきそれぞ

口上

当日詳そ外混雑仕
ゆよ者寄り乱そ出方
ゆる日の時金そ出度
下ゆゆ

月日　世話人

かくのごとくさげゆどて有うけるゆくさそハたふ
のこと出いるぎとまぐ神おるまりうて
法神の利生かくぐろ入ぐろや
ぎ時ゆハ有うで巻るゆ札
ゆくろいぐそちきゆいきそそち社内ものろ
ぎ巻んきのしておものろとゆろいで
ゆハナントそ内きそそゆつぐ金使れるいきハ世毎いう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

道中膝栗毛八編 上中之終

14